

令和4年度（2022年度）北海道社会教育セミナー 事業報告書

○ 事業の概要

1 事業名

令和4年度（2022年度）北海道社会教育セミナー

2 開催日時

令和4年6月2日（木）13:30～16:20

令和4年6月3日（金）13:30～16:00（終了後、自由交流 ～17:00）

3 開催場所

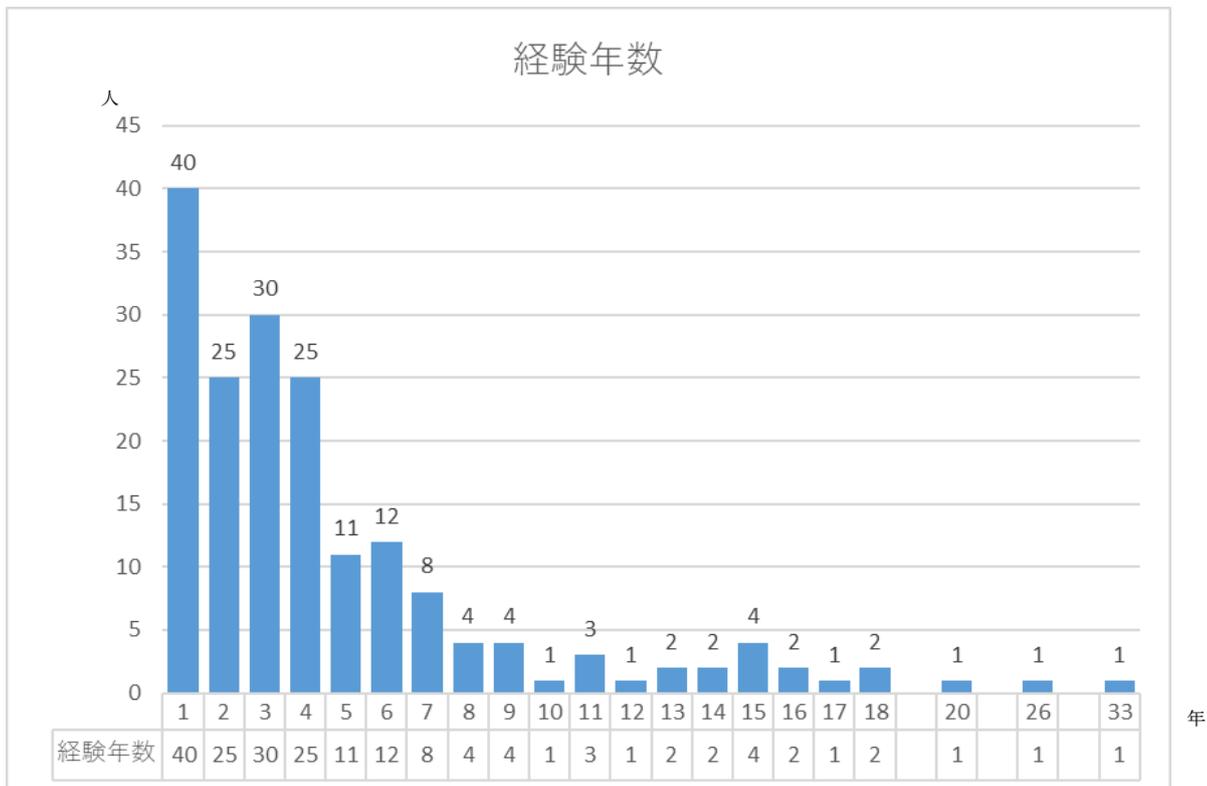
オンライン（配信場所：北海道立生涯学習推進センター）

4 参加人数・市町村数

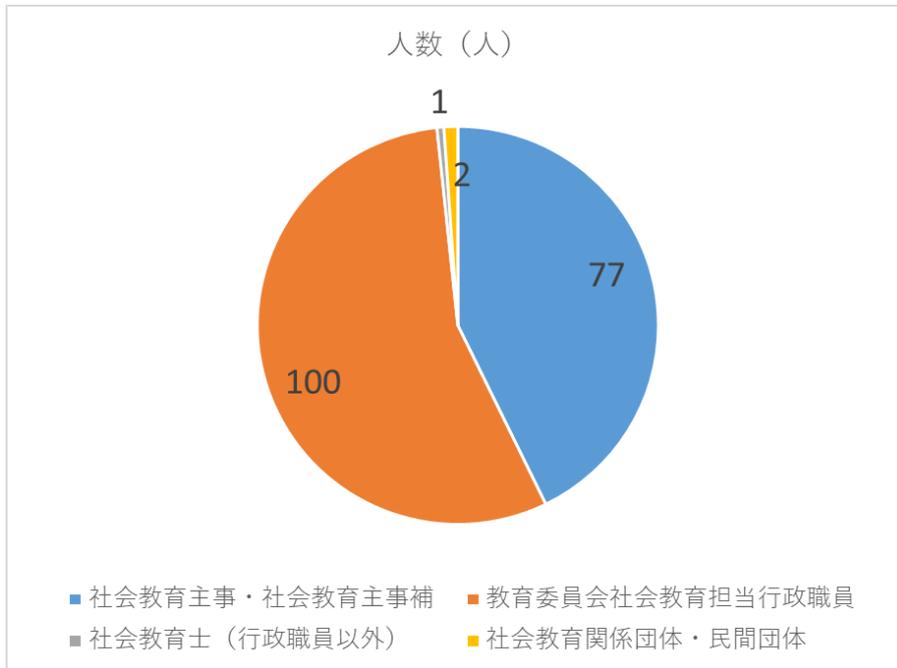
214名参加 106市町村

※ 演習78人、基礎講座87人

5 参加者の社会教育、生涯学習に携わっている経験年数



※ 申込時のデータ。1 端末で複数人参加する場合は代表者のみのデータ。



※ 申込時のデータ。1 端末で複数人参加する場合は代表者のみのデータ。

6 プログラム

	13:00	13:30	14:10	15:40	15:50	16:20
6/2 (木)	入室	開会 概要説明	基調講演 「地域づくりの担い手育成に向けた 行政と住民の連携・協働」	休憩	グループ交流 講演を受けての感想や 意見を交流します	
6/3 (金)	入室	説明	演習 「地域づくりの担い手育成」に向けた演習を行います 基礎講座 社会教育の経験が3年以内の方を対象とした講座です	閉会	閉会后 自由交流 (任意参加)	

プログラム	タイトル	講師等	内容
基調公演	「地域づくりの担い手育成 に向けた行政と住民の連 携・協働」	・高知県南 ^{なんこく} 国 ^{いなぶ} 市立稲生公民館 顧問 前田 ^{まえだ} 学浩 ^{みちひろ} 氏 ・高知大学地域協働学部	・チーム稲生の取組 ・イノベーター理論 ・地域コミュニティの再構築 ・高知大学地域協働学部の取組
演習	「地域づくりの担い手育 成」に向けた演習	進行 北海道立生涯学習推進センター 主査 国枝 知	・それぞれが地域や担い手の 状況をどのように捉え、どの ような活動を推進すること で、担い手育成を進めていく かの現状や今後の活動につ いて整理する。 ・フィッシュボーンチャート による要因分析

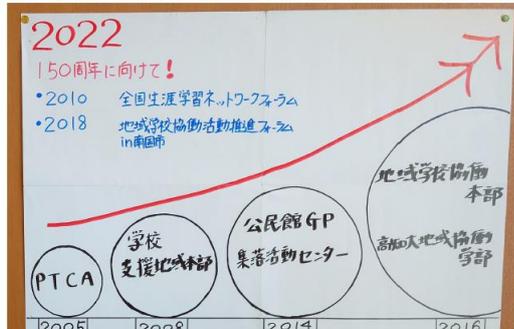
基礎講座	社会教育の経験が3年以内の方を対象とした講座	進行 北海道立生涯学習推進センター 社会教育主事 斉藤 萌 (マナボー)	・「社会教育」や「生涯学習」についての理解を深めるとともに、今の活動を振り返る。 ・「教育」「学習」 ・自分の事業への振り返り ・日常的な課題の交流
交流	フリートーク	交流テーマ ① ひとづくり・まちづくり ② 生涯学習支援 ③ 家庭教育支援 ④ 情報交換	・交流テーマに基づいたブレイクアウトルームを設定し、少人数で交流

(1) 基調講演「地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働」

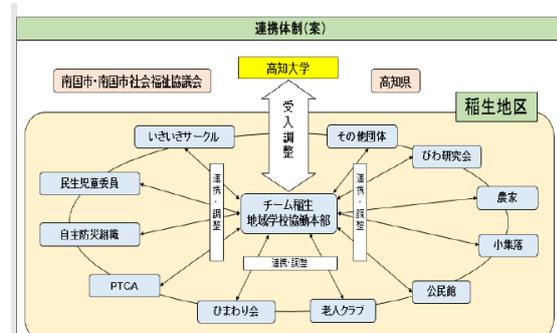
講師：高知県南国市立稲生公民館顧問 ^{なんこく いなぶ} 前田 ^{まへだ みわひろ} 学浩 氏、高知大学地域協働学部

○ 「チーム稲生」の取組

事業展開を進めながら、地域づくりの担い手を増やしていく



稲生地区の高知大学も含めた連携体制図



- ・未来を見据えた目標を意識して、活動を進めている。
- ・様々な連携を活用しながら活動を推進。稲生地区以外（高知大学等）との連携も有効。
- ・PTCA活動（PTAに地域の「C」を加えた活動）を基盤に、地域学校協働本部が展開。
- ・＜健康づくり＞＜地域づくり＞
- ・地域住民が集う「サロン」としての公民館

○ イノベーター理論

担い手の捉え方とイノベーター理論での階層

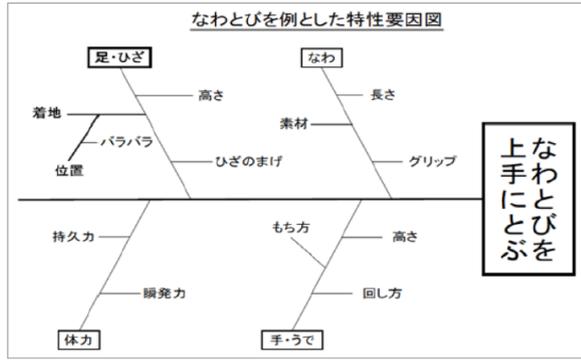
- | | |
|-------------------------|-------------------|
| A:地域のリーダー的住民 | <u>イノベーター</u> |
| B:リーダーを支える住民 | <u>アーリーアダプター</u> |
| C:地域の活動を理解する住民 | <u>アーリーマジョリティ</u> |
| D:地域の活動に関心はあるが理解していない住民 | <u>レイトマジョリティ</u> |
| E:地域の活動に関心がない住民 | <u>ラガード</u> |

難しいことを優しく・・・新しい祭りを公民館で
 優しいことを深く・・・多世代団体の主催
 深いことを面白く・・・祭りポスターにワンボイス
 面白いことを真面目に・・・専門家講演や6年生発表
 真面目なことを愉快地・・・ライブ・飲食ブース設置
 愉快なことをより愉快地に・・・びわ太郎VSもも太郎相撲

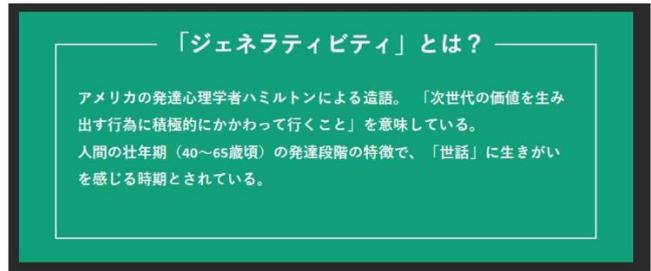


- ・アーリーアダプター（リーダーを支える住民）を増やす取組が重要。
- ・「キャズム理論」を意識した「普及の壁」を越える取組。
- ・「深いことを面白く」を意識して仕掛けづくりをしていく。
- ・「サロン」で公民館に住民が集まり、話をするのが「元気づくり」につながっている。
～ 医療費の削減にもつながっている。
- ・アーリーアダプターが声掛けして住民を巻き込んでいく
～ イノベーターや行政職員は暑苦しい

○ 「地域コミュニティ」の再構築



ジェネラティビティ と おんがえし



60～65歳を節目に、地域づくりの担い手になってもらう。

- ・ SNSではできない。
- ・ 社会教育関係者が地道に進めていくことしかできない。
- ・ 「熟議」こそ活動の原点。
- ・ 「特性要因図」によるワークショップ
- ・ ジェネラティビティとおんがえし
～ 「世話」に生きがいを感じる年代に地域の担い手になってもらう
- ・ 「希望」の共有・実現



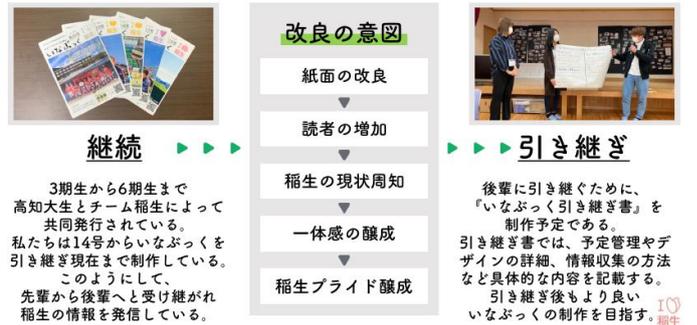
○ 高知大学地域協働学部の取組

社会教育のステップ Plan Do Check Action



- ・ 実習として各地域に入り活動している。
- ・ 人づくり・地域づくり・誇りづくり
- ・ 情報誌づくりとサロン
- ・ 稲生プライドの醸成

4. 今後の企画 いなぶっく Plan Do Check Action



(2) 演習「特性要因図（フィッシュボーンチャート）を活用した要因の洗い出し」

- ・ 基調講演でも取り上げられていた「特性要因図（フィッシュボーンチャート）」を活用して、結果（目標）に向かうための「要因」を洗い出し、各実践で活用できる視点を整理する。



- ・結果・目標を「地域の担い手育成」または「地域との連携協働」として、想定する住民のステージを明確にして演習を実施。
- ・要因を「人」「関わり方」「環境」「プログラム」の4つの視点で洗い出し、重要だと思うものをグループで合意形成してチャートにまとめた。

<演習で出てきた視点>

【人】

<p><人>地域の担い手育成 (D~Cへ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育行政から遠い人は無関心 ・多忙・ライフスタイルの差 ・人口減少・少子化 ・高齢化が進んでいる ・閉じこもりがちな高齢者 ・元気な高齢者 ・家庭教育→住民、民間、関係団体(利用者からボランティアへ) ・農家、防災士、PTA、商工会 ・部活動→中学生、高校生、成人、高齢者(それぞれの立場で指導) ・中高生 ・地域の大人、保護者 ・働く世代・子育て世代 ・現役世代/親/健康で元気な人 ・文化の継承→親子 ・年齢・性別 ・誰でも参加可能 ・体験活動の経験者・OB ・社会教育の取組に参加してほしい人 ・U.Iターーン(地元に関心、地元が好き人が多い) 	<p><人>地域の担い手育成(ステージ指定なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ目標を持った人の集まり ・「この指止まれ」で声を上げる人 <p><人>若年層の担い手育成(すべてのステージからワンランクアップへ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生 ・生徒の保護者 ・事業への参加者 ・学校の教員 <p><人>地域の担い手育成に向けた連携・協働(D~Cへ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おこぼれ的な副産物的なフック(一粒で2、3度美味しい) ・いろいろな人が巻き込まれていく ・生粋の地元人・高校生・学校の先生、保護者(子育て)世代、20代前半 ・参加したいけど一歩が出てこない ・興味あるけど、何してる? =お客さん <p><人>担い手候補の発掘(CDからBへ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生 ・高校生・親世代・子育て一段落世代 ・PTA・自治会役員・子供会・少年団指導者等
--	---

【関わり方】

<p><関わり方>地域の担い手育成~D~Cへ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員の固定化 ・できる人が固定している ・考え方の違い(迷惑をかけたくない) ・考えの固定化(ジェネレーションギャップなど) ・普段の人間関係の影響 ・関わる機会を作る→世間話(仲良くなる)→つながる(相手に寄り添う) ・挨拶運動、図書室の本の整理 ・負担軽減、先生のサポート→部活動の指導を受け持つ、金銭的なことを気にしない ・ソフトな関わり方、ゆるやかに(曜日形式のイベント→楽しいイベント参加からきっかけを作る) ・成功体験・大人が楽しく学ぶ姿 ・1泊一親にとってもメリット(親の理解) ・スタッフと参加者の距離感 ・学校・行政・地域を含む団体同士のつながり ・地域のことを知る・考える ・地域の姿を知ってもらう ・地域が好きになる ・担い手の自覚 ・担い手育成のためには地域活動の場に出てきてもらう必要 ・いかにして誘うか ・住民の声かけ/地域のコミュニケーション/多様性/ ・幅広い年齢層との関わり(異世代交流) 	<p><関わり方>地域の担い手育成~ステージ指定なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「育成」とは ・社会教育行政職員が育てるのか→一緒に育っていくものでは <p><関わり方>若年層の担い手育成(すべてのステージからワンランクアップへ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入・成果・評価 ・事業後のヒアリング ・ボランティア活動の説明(理解・協力) ・学校へのアプローチ <p><関わり方>地域の担い手育成に向けた連携・協働(D~Cへ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果よりプロセスを評価できる関わり ・自ら考え、選択し、行動し、挑戦する場 ・当事者を持つようにあえて完璧におもてなしをしない。やりすぎない。準備しすぎない。 ・「〇〇たい」を引き出す(エンパワメント) ・まずは会うことから <p><関わり方>担い手候補の発掘(CDからBへ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・町内会・子供会・学校の先生 ・広報・SNS・新聞 ・自信が持てるような声掛け ・参加して慣れた頃に役割を提供する ・各学校の外部講師、文化講座の指導者
---	--

【環境】

<p><環境>地域の担い手育成～D～Cへ</p> <ul style="list-style-type: none">・時間と場所が限られる・人間関係の希薄化・情報発信の幅り（SNS、Web、新聞等）・お金の関係・人材バンク、交通の利便性、入りやすい場所・学校開放・CSコーディネーター、CS通信、ハンドブック、広報・人が集う場所、公民館、ネットワーク・人とつながれる環境・広報、口コミ、SNS（ストーリーでリアルタイム配信）、ブログとか・地域活動を理解するための場の提供・インフラだけでなく自然込みの住み続けたい町・町の指針共通理解・人の暖かさ <p><環境>地域の担い手育成～ステージ指定なし</p> <ul style="list-style-type: none">・「地域」はどこからどこまでを指すのか・A-Eに入らない人もいるのでは	<p><環境>若年層の担い手育成（すべてのステージからワンランクアップへ）</p> <ul style="list-style-type: none">・キャリア企業との連携・スポ少事務局との連携・子育て支援等の団体との連携・学校との連携 <p><環境>地域の担い手育成に向けた連携・協働（D～Cへ）</p> <ul style="list-style-type: none">・成果を発揮できる場・自ら考え、選択し、行動し、挑戦する場・保護者世代等の余裕（余白）を生み出す環境整備を・あいさつ以上の会話ができる知り合いを増える・多世代、多業種、他地域が混ざり合う環境を用意する（中高生込み） <p><環境>担い手候補の発掘（CDからBへ）</p> <ul style="list-style-type: none">・屋外・大規模な施設（文化ホール等）・交通手段（僻地の子どもが参加できるように）・オンライン・学校に入りやすいように橋渡しする・施設利用しやすい環境を提供
--	---

【プログラム】

<p><プログラム>地域の担い手育成～D～Cへ</p> <ul style="list-style-type: none">・メリットがないと思われている・好きな分野を極められる環境がある・まず楽しい場。楽しいことが大事/集まって話ができる場・一緒に行く人を求めている・興味関心のある事業のみ参加・ハードルを下げる、市町村プログラムをネイバルで（連携した企画）・野外活動、制作系、身近・キャンプ/自然体験/ハードな外遊び・地域の強み（自然体験（タンチョウ、釣り、ラフティング）、農場体験）・地域のニーズを取り入れた企画・運営・住民参画のイベント・他部局との連携 <p><プログラム>地域の担い手育成～ステージ指定なし</p> <ul style="list-style-type: none">・担い手の捉え方が実情に合っていないのでは・AもBも変わらない。線引きできるのか・リーダーは何をする人・何をもって「地域リーダー」	<p><プログラム>若年層の担い手育成（すべてのステージからワンランクアップへ）</p> <ul style="list-style-type: none">・スマホ教室・スポーツ少年団への支援・読書活動・長期休業中の学習支援 <p><プログラム>地域の担い手育成に向けた連携・協働（D～Cへ）</p> <ul style="list-style-type: none">・わくわく・おもしろがる・開拓・いろいろな人が巻き込まれていく・自ら考え、選択し、行動し、挑戦する場・予算ありきではなく、実施に必要な予算を用意するところから始める・計画、企画段階から参加できるプログラム（実行委員等） <p><プログラム>担い手候補の発掘（CDからBへ）</p> <ul style="list-style-type: none">・少年団・習い事の発表の場・イベント・町内会等の隠し芸大会・小学校の行事に参加（避難訓練・運動会等に地域の大人が参加する）・小学生の職場体験（地域の大人たちと接点を持つ）・講座・プログラムを充実・人材バンク
--	--

(3) 基礎講座

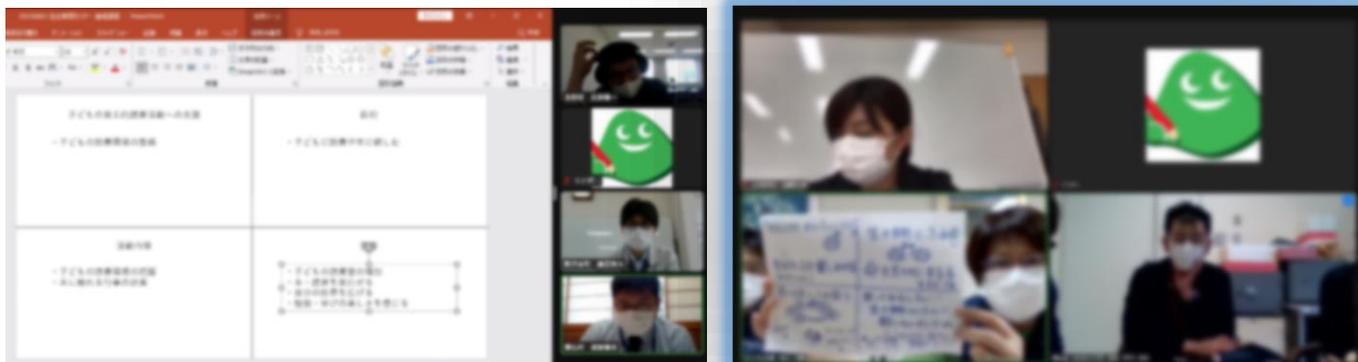
- 経験年数3年目以下を対象とした基礎講座
 - ・基礎的な理解の共有
 - ・それぞれの業務を振り返るとどうか（個人ワーク）
 - ・個人ワークと日常の情報交流

※動画（マナボー出演）を活用し、参加しやすい雰囲気作りを進めた。

○ 基礎的な理解の共有

- ・教育と学習のちがひ
- ・社会教育の特性
- ・「社会教育行政」の立ち位置
- ・住民（学習者）の立場
- ・日々「こなす」のではなく、人をどう変えるか・目的を意識する。

○ グループワークの様子



(4) 交流「フリートーク」

- ・オンライン開催のため、参加者同士の交流の機会を作ることが難しいことから、交流のテーマを設定し、自分が交流したいと思うものに近いテーマを選ぶ等、少人数に分けて交流できるような仕掛けで実施した。

<交流テーマ>

- ① ひとづくり・まちづくり
- ② 生涯学習支援
- ③ 家庭教育支援
- ④ 情報交換

- ・オンラインでは、「1対全体」でしか話ができないため、交流するには、少人数でのグループ分けが必須。
- ・短時間での交流となることから、少しでも、深い交流となるように、グループの再編成などは実施せず、1つのグループでじっくり交流できるように配慮した。

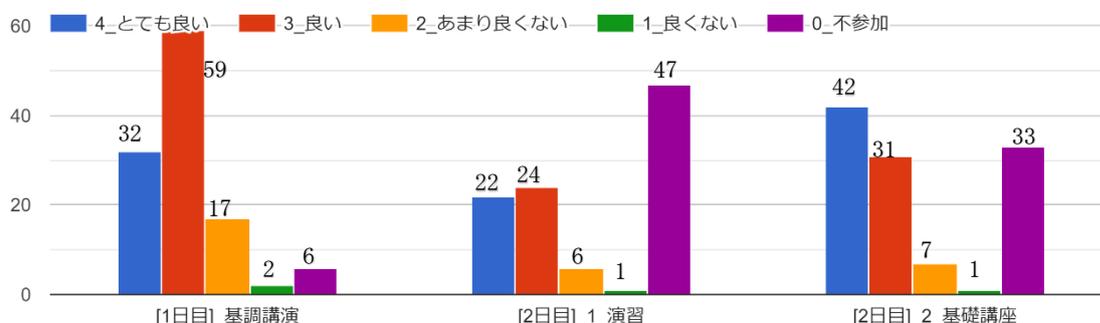
○ 成果と課題

参加者アンケートをもとに、各プログラムについて、成果と課題を整理する。

参加者アンケート回収率 57% (回答数122件/参加者数214名)

参加者アンケート実施方法 Google form

1 満足度

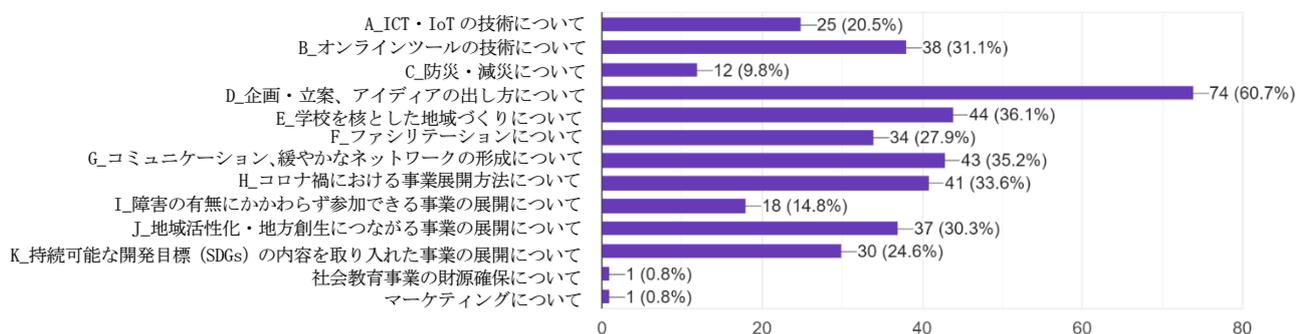


- アンケートの設定の影響で、評価の満足度が1回しか選択できなくなっており、基調講演で4をつけたら、演習で4を選択できない状態になっていたため、正確なデータ収集にならなかった。
- 肯定的評価（4、3）の割合は、以下のとおりとなった。
 - 基調講演 82.7% (91/110)
 - 演習 86.8% (46/53)
 - 基礎講座 90.1% (73/81)
- 基調講演は、約8割は肯定的な評価であった。
- 北海道の研究テーマを参酌して講義いただいたことや、講師を中心に素晴らしい実践があったことが高評価につながったのではないかと。
- その一方、「地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働」という広い話題であったことから、すべての参加者の実情・ニーズを満足させるのは難しい側面もあった。
- 演習では、基調講演とのつながりを意識した組み立てであったことや、ワークへの姿勢が前向きな参加者が多く、参加姿勢から得られるものが多かったことが高評価につながったのではないかと。
- 演習課題が、広いものであったことから、細かな捉え方についての議論に時間を費やすグループもあった。
- 基礎講座では、「回答に間違いがない」ことなど、経験が浅い参加者でも安心して取り組めるように工夫したことも高評価につながったのではないかと。
- 「教育」「学習」など、そもそもの理論と日常の業務がつながるように組み立てていたため、参加者の日常を振り返る機会にもなった。
- 経験年数が浅い参加者も多かったことから、基礎講座へのニーズが高いことが改めて浮き彫りとなった。それぞれのニーズに合わせたセミナーの組み立てが求められる。

2 今後のスキルアップ研修について

あなたのスキルアップを考えたときに、研修についてどのようなテーマが必要ですか（複数回答可）

122件の回答



- ・経験年数が浅い参加者が多かったことから、「D_企画・立案、アイデアの出し方について」のニーズが高いことがわかった。
- ・この2年間、コロナ禍の影響を受け、オンライン中心に研修を展開してきたが、まだまだ、「B_オンラインツールの技術について」や「H_コロナ禍における事業展開方法について」も課題となっていることがわかった。

3 アンケート記述から

【研修内容について】

- 大変、有意義な研修になりました。ありがとうございました。
- 運営お疲れ様です。2日目は特に、興味深い内容でした。ありがとうございました。
- 基礎講座に参加させていただきました。社会教育の基礎の部分を深く学ぶことができました。斉藤さんありがとうございました
- 基調講演では様々な取組みを紹介していただき、非常に参考になりましたが、可能であればそこに参加された方や地域の変容も教えていただきたかったです。
- チーム稲生の取組みはとても勉強になりました。
- 最初に全ての回答が正解と言ってもらえて、発言しやすくなりました。ありがとうございました。
- 2日間ありがとうございました。講演について、さまざまな取組み事例を知ることができ、勉強になりました。特に健康づくりの事例が興味深く、自治体（国保担当や保健師）や関係団体（医療機関など）とどのように連携をしたか、サロンへの集客方法などとても気になりました。”
- 改めて考えると難しいこと、わかっているつもりで言葉にできないことが多くあることに気づくことができました。
- 基礎的なことを学べたこと、違う地域の方と交流できたことが良かったです。”
- 演習を通じて意見交換や考え方を学ぶことができ、良かった。
- 演習を通しての交流が有意義でした。ありがとうございました。
- 本研究の基調講演は研究テーマに取り組むにあたり、とても素晴らしい内容でした。担い手の育成＝町のため、社会教育担当職員としての役割をこれからも追及していきたいと感じました。
- 基礎講座を選択しましたが、社会教育の理論をやさしく復習できました。
- 他町村の現状を知る事が出来てよかった。
- 講演のなかの、前半の内容は、横文字が多く分かりにくかった。言い換えや解説がほしかったです。
- 後半の大学生の発表の中身自体は、素晴らしい取組である反面、この発表がどんな狙いがあったのか分かりませんでした。学生たちの視点からの感想などありましたが、感想だけでなく、彼らなりに感じた課題などが聞きたかったです。講演を楽しみにしていた分、残念でした。
- 演習の際に主催者側と私自身の認識に差があり、課題内容が抽象的すぎて難しく感じてしまった。
- 基調講演の内容について、理論に基づいて具体的にどのようにアプローチしたのかが見えない内容だった。具体例を絞って、社会教育士としてどのように町民にアプローチしたのか、立ち回ったのかという方が個人的に興味があった。
- 講演の内容に対して、フィッシュボーンの手法は不向きだったと感じた。
- 研修の内容について、研修後すぐに活かせるような、身近な内容がよいのではと思う。

<回答を受けて>

- ・実践家の話は、参考になる。
- ・より具体的な動きや、住民・学生の変容がでてくるとよかった。
- ・演習への共通理解や手法については、誰もが取り組みやすいように吟味する必要がある。
- ・基礎講座の内容は、対象者とあっていた。

【運営・実施方法について】

- オンラインのおかげもあり、道外の方のお話を聞けるのはメリットだと感じる
- 社会教育の世界に入ったばかりなので、様々な方たちと繋がれる機会をいただき大変ありがたく思っております。今後もこのような機会をいただけたら嬉しいです。
- 半日日程で集中して取り組むことができた。
- 人口規模に応じたグループだったおかげで、似たような事例が多く共感する部分が多くあった。
- 1日目基調講演もとても素晴らしい内容でしたが、他の市町村民の方と合流でき、参加者本人が考え、もっと身近な内容を学べる2日目の方が有意義に感じました。1日目はもっとコンパクトで良いかもしれません。
- 丁度よい気の抜け方で楽しかったです
- 運営に関わった皆様、大変ありがとうございました。”
- 今回の設定時間内で交流するには、今回の1グループ4人は適当だと思います。
- 最初はズームでのセミナーは、実際に相手の姿が見えないので少し抵抗があったが、これもありと感じました。ありがとうございました。
- 初めてのリモート会議に戸惑いましたがいい経験でした。
- 演習のグループについては、地域を考慮していただき、違う管内との交流による気づき、学びをお願いします。せっかく個人で参加したのに、同じ市町村が同じグループは…。
- 演習グループが上川管内が3名だった。他の管内の方も混ぜてほしかった。
- 唯一残念なのは、演習グループの名簿を見ると同じ管内が配置されていたので、せっかく全道を対象にした研修なので、調整できる範囲で管内をバラバラにすると良いと思います。
- 演習を欠席しているのかわからない。参加すると思いついてしまった。
- 初日にチャット機能が使えず、他の参加者と交流ができなかった。チャット機能等で随時質問を受け付けてもらえると良かったと思う。”
- 大人数のオンラインだとコミュニケーションを図るのが難しい
- 参加者の意識の違いがあり交流が難しかった（何をしたかの交流ではないのに、事業の経験が少ないから考えられないなど）。ブレイクアウトルーム時に、局担当にファシリテートしてもらえると、意見交換に全神経を集中できたのでよかった。
- 端末は自由である一方で、ワークシートはMSのWord、PPT形式だったので、MSOfficeに対応していないOSの参加者もいるということ念頭に置く必要があるのではと感じた。少なくともPDF化したシートも配付すべきだと思う。
- チャットを制限していたが、講演に対してリアルタイムで聴衆から意見や質問、コメントを集められたほうが、「一方通行」な研修にならずによいと思う。質疑応答の際に、参加者から手があがらなくても、チャットのコメントから運営が講師に話をふることも可能だと思う。
- 演習を行う際には少しグループワークに不便するのが課題のように感じました。

<回答を受けて>

- ・オンラインでの実施については、一長一短があるが、一定程度の評価を得た。
- ・半日日程×2日の実施は、オンラインとしては、概ね妥当な日程の設定であった。
- ・演習のグループ分けは、管内のバランスに配慮をする必要がある。
- ・オンラインの講座では、チャット機能を活用することは、双方向性を確保する方法なので、どのように双方向性や没入感を確保するのか、検討が必要である。
- ・オンラインでの演習では、共通のアプリやソフトがある方が円滑に進むため、共有ツールについて確認・活用の方策が必要である。

【その他の意見】

- ・特にありません。ありがとうございました。
- ・対面でできたら、嬉しいです
- ・とても有意義な時間でした。
- ・より濃密な学びの場づくりを望みます。
- ・演習は個人作業のときに、オフラインであれば独り言を拾ってもらい雑談に繋がりますが、オンラインだと独り言のハードルも高くなり、本当に個人作業で寂しく感じました。繋がりがづくりには中々至らないので対面でセミナーが開催できるのを楽しみにしております。”
- ・実践交流セミナーは対面との事でしたが、出張ができないため、オンラインも残してほしいです。
- ・参加者アンケートの満足度で、同じ満足度を選ぶことができなくなっています。
- ・2日目の基礎講座も「4_とても良い」でしたが、選択できなかったなので、「3_良い」にしました。
- ・みなさまおつかれさまでした。満足度のところ全て4でしたが、選択できないので3と0とさせていただきます。ご了承ください。
- ・お疲れ様でした。そろそろ集合型で開催したいですね。
- ・集合型であれば、セミナーの主題研究テーマに基づくグループ協議はもちろんのこと、参加の市町村教育委員会の関係者が様々な業務の話題を共有できる場にもなります。次年度はリアルの復活をお願いしたいです。決してオンラインで行った今年度が悪いわけではありません。皆さん慣れていきただけでいい感じでした。ありがとうございました。”
- ・交流も多くでき、他町の取り組みを参考にこれから活動していけたらと思います。
- ・今回、セミナーを開催してくださり、ありがとうございました。
- ・マナーおつかれさま(^)
- ・1日目の基調講演で、こちらの機器の不具合なのか、途中交信が2回ほど切れてしまいました。また、2日目の演習で、途中席を外してしまい、大切なところに参加できず反省しています。
- ・電波状況が悪く、所々聞けないところもありましたが、非常に身になったセミナーでした。
- ・大勢の参加ということもあり運営側は大変だったと思いますが、お疲れさまでした。”

＜回答を受けて＞

- ・対面を望む声が多く見られる一方、オンラインでないと参加できないという声もある。どのように両方を実現していくのか、両立は難しさがあるが、すべて満足にいかなくても、方策を検討していく。
- ・アンケート設定は、不備があったので、確認を徹底していく。